



鶏 けいめい 鳴

2008年3月9日(第11号)

イエスの言葉

「人はパンだけで生きる

ものではない」

聖書(マタイ福音書4章4節)

牧師 河合裕志

前の文語訳聖書では「人はパンのみにて生きるにあらず」とあったが、これでおぼえている人があるかも知れない。これはイエスが公生涯に入る前に荒れ野において断食をしている時に悪魔(サタン)から「神の子ならこれらの石がパンになるように命じたらどうだ」と誘惑してきた時に答えた言葉。腹ペコペコのイエスに丸い石はパンに見えて来たことだろう。そこをすかさず悪魔は突いて来た。悪魔は今日も勤勉で人間の最も弱い所に働きかけて来るので要注意。

イエスが今この誘惑に、うっかり乗ってしまったらどういうことになるか。何だかんだ言っても最後はパンさ、お金さ、経済さという考え方にくみしてしまうことになる。現に民衆は飢えていた。彼らにパンをもたらし救いを成就する。

そのようにして神の子である、救世主であることを証明する。そうしたらどうなの、と悪魔はささやきかけてきたのである。これは悪魔との熾烈な戦場。勝つか負けるか。

果たしてイエスは「人はパンだけで…」と言って悪魔を撃退した。「人間はパンだけあればそれで生きるというものではない。パンは必要だがそれだけでは単に動物が生きているのと変りはない。パンと共に大事なものがあるでしょ、

人を愛する、人から愛されるということが大切だよ」。こんな具合にこれを受けとめてよいだろう。パンがお金が充分あったとしても、そこに愛し愛されることがなければ人間らしく生きていることにならない。

さてイエスはこの「人はパンだけで…」に続けてこう言っている。「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる、と書いてある」。これから明らかなように「人はパンだけで……」は実はイエス独自の言葉というより旧約聖書(申命記8章)にあるものでそれをイエスが引用したということ。しかしこれは勿論イエスの考え方の表明に他ならない。パンの他に何が必要なのか、それは神の言葉だと。

神の言葉とは聖書のことであり、イエスは聖書の中でも神を愛せよ、人を愛せよの二つが最重要であると教えた。神の愛を知って神を愛する、そして人への愛の心をもって生きる、これこそが人間らしい生き方とイエスは示した。今、日本で餓死する人は殆ど無い。誠に結構なこと。しかし人間らしく生きていますかと問われるとさて、と考えてしまわないだろうか。

イエスの助けを頂いて少しでも人間らしく生きて行こう。

集会案内

主日礼拝：毎日曜日 午前10時15分

こどもの教会：毎日曜日 午前9時

祈祷会：第4日曜日 礼拝後

婦人会・壮年会：第2日曜日 礼拝後

聖書を学ぶ集い：第4水曜日 午前10時

オリーブの会：第3水曜日 午前10時